

## 2024(令和6)年度 第1回初任者 SD 研修 「大学職員の仕事の進め方」開催報告

日 時： 2024(令和6)年6月20日(木) 13:00~17:00、情報交換会 17:00~17:30  
会 場： キャンパスポート大阪  
(大阪市北区梅田1-2-2-400 大阪駅前第2ビル4階)  
講 師： 宮原 秀明 氏(研修部会推進委員会 委員長、大阪学院大学 大学事務長)  
葛西 崇文 氏(研修部会推進委員会 副委員長、大阪女学院大学 管理課 課長)  
受 講 者 数： 8大学 18名(うち会員外1大学1名) ※申込者数は左記に同じ  
内 容 詳 細： 大学コンソーシアム大阪 HP 掲載の「シラバス」参照  
実 施 結 果： 同上掲載の「受講者アンケート」参照  
企 画・運 営： 大学コンソーシアム大阪 研修部会推進委員会

今年度の第1回初任者SD研修は、キャンパスポート大阪を会場に対面にて開催した。はじめに宮原講師よりプログラム内容と本研修のゴールについて説明があり、「終了後には内容を振り返り、アクションプランを実行する下準備ができている状態になることが本研修の狙いである。」との挨拶があった。

続けて導入として、すでにできていること(学生時代に力を入れたことや特技)や、昨日の業務内容を記入(アウトプット)するワークを行った後、「大学職員の仕事の進め方」をテーマに、各講師による講演が行われた。概要は以下のとおり。

### ■宮原講師

大学職員の仕事の進め方としてアクションプランに加えてほしいことに、以下7つがある。

- 01 逆算して優先事項から取り組む(カレンダーを活用し、逆算・俯瞰してマイルストーンを置く。すべきことを明確にし、優先度の高いものから取り組む。カレンダーはイベントだけを書くものではない。)
- 02 仕事は三度行う(例えばメールの場合は①送信内容を考えまとめる、②実際にメール本文を書く、③必ず見直して送信する／①と③を略すと余計に時間がかかる場合が多い。)
- 03 仕事は前後左右を確認・注視する(前=来年度の見込み、後=昨年度の実績、左=法令・学則等の根拠、右=他学・他の類似例／フォローシップ発揮のためにも、前後だけではなく左右も見るようにしてほしい。)
- 04 問題解決のため事実を集める(判断材料を十分に集めてから解決方法を考える。そして決定し、実行する。)
- 05 相乗効果となる報連相を逐次行う(仕事は“仲間”ではなく“チーム”で行っており、相互の不足を補い合う必要がある。事前の情報共有が円滑な業務遂行やチームのパフォーマンス向上に繋がる。)
- 06 傾聴してコミュニケーション力を高める(うまく話すことだけがコミュニケーション能力ではない。しっかりと関心をもって聴くことが重要であり、理解してから理解されることを心がける。)
- 07 主体性を発揮する(自身の業務をしっかりとこなし、できること(影響範囲)を少しずつ広げる。できないことを考え過ぎない。外部環境のせいにならない。)

番外 図書館を有効活用する(職場環境を生かして大いに利用する。)

以上のインプットをアクションプランとして、また自らの行動として、ぜひアウトプットしていただきたい。



## ■葛西講師



大学の現場で職員に求められていることは多岐にわたるが、「スキル」、「知識」、「意識・態度」の3つに分類して説明したい。「スキル」には社会共通スキル(報連相、5S、言葉遣い等)、コミュニケーションスキル(論理的に話す、傾聴する等)、ICTスキル(各種アプリへの習熟、SNSの利活用等)があるが、関連書籍や動画に触れること、意図的にスキルを試すことを通して、社会や技術の変化にあわせて磨き、よりよいものにしてほしい。「知識」には組織の知識(自大学やその運営システム、文化や風土等についての知識)、政策と業界動向の知識、法令の知識があるが、まずは、自大学の

よい点に着目しながら、担当業務にかかる身近な規程をよく読むとよい。規程からそれに紐づく法令に興味を向けてみてほしい。知識は、自大学と他大学を比較したり、中教審答申の用語集に目を通したり、メーリングリストに登録して情報を得ることを通しても身に付く。ただ、知識や先入観が問題解決を阻む場合もあるので、注意してほしい。「意識・態度」においては、役割意識を持ちながら任された仕事を確実に全うし、よりよい仕事を目指すことをまず目標としてほしい。自分には変えられるものと変えられないものがある。それらを見分け、悩み過ぎず、自己肯定すること、自身の心身の健康を守ること、他者を尊重し、誠実・謙虚であることが大切である。これらを身に着けるには時間がかかるが、仲間を作り孤立を避け、時代に合ったロールモデルを見つけることが一助となる。これらを身に付けることで、課題の発見と解決、専門性の獲得や変化への適応が可能となり、結果的に帰属意識の形成やチームワークの発揮、内外のネットワーク形成が促進される。受講者のみなさんには、長期目標を持ち、短期目標を具体化すること、そして、結果を求めすぎないことを勧めたい。答申や報告書、論文等を読み、研修に参加することもその助けになる。AIの台頭等により学び方や人間の存在意義も変化していく時代ではあるが、その根本にある原理や本質は変わらないと考えている。「めざす」、「つづける」、「つながる」をキーワードに未来へ向けて進んでほしい。

講演終了後、以下のとおり質疑応答が行われた。

<質問1>講師はどんな書籍を読んでいるのか。(推薦図書はあるか。)

<回答1>「独学大全」、「7つの習慣」、「道は開ける」(宮原講師)

「エスキモーに氷を売る」、「信頼の原則」、「流れとよどみ-哲学断章」(葛西講師:前任校で整備したSD図書のうち、自費でも購入した図書)

※図書詳細は本文末尾に記載

<質問2>大学内でAIに奪われると思う業務にはどのようなものがあるか。

<回答2>例えば文章作成等に関しては、すでに変化が生じており、教員側もそれを意識した問題を作らざるを得なくなっている。(葛西講師)

<質問3>(葛西講師へ)青森から大阪に転職された理由はどのようなものか。

<回答3>新しい組織で、これまで取り組んだことのない業務にチャレンジするため。過去に、大学コンソーシアム大阪の海外SD研修へ参加したことがきっかけとなった。(葛西講師)

<質問4>“扱いきれないサイズだが解決したい課題”にはどう向き合ってゆくべきか。

<回答4>様々な人と話し合う、提案するなど、できることから取り組むことをすすめたい。ただし愚痴になることは避けてほしい。(宮原講師)

抽象度の高い大きな課題の場合は、自分が取り組める課題(小さな現場レベルの課題)に分解して段階的に取り組むことを勧めたい。(葛西講師)

続いての個人ワークでは、ワークシートを用いて、研修で学んだことを実行するためのアクションプランを作成した。(1.現状の業務内容を書き出す、2. 本日の講義を聞いて具体的に取組みそうなものを書き出す、3.具体的に取組みむことで何ができるようになるのか明確に記す、4. いつまでにできるようにしたいか具体的に記す)

その後、2人1組のペアワークにて、自己紹介を行い、記入内容の共通点を10個挙げるというアイスブレイクの後、各自のアクションプランについて、相互に傾聴とフィードバックを行った。

最後に自らのアクションプランの清書を行ったうえで、1人1人より全体発表があった。



ペアワークの様子

閉会挨拶として、宮原講師より「本日作成したアクションプランは、ぜひ持ち帰って自大学に報告し、可能であれば数か月後にまた講師にフィードバックしてほしい。今後も共に研鑽できればうれしい限りである。」との言葉があった。

研修本編の終了後には、受講者と講師、研修部会推進委員による情報交換会が開催され、大学を越えたネットワーキングが図られた。また、希望者には「受講証明書」が配付された。



情報交換会の様子

以上

#### ※推薦図書詳細

- ・独学大全:読書猿(著)／ダイヤモンド社
- ・7つの習慣:スティーブン・R.コヴィー(著)／FCE パブリッシング、キングベアー出版ほか
- ・道は開ける:D・カーネギー(著)／創元社
- ・エスキモーに氷を売る:ジョン・スポールストラ(著)／きこ書房
- ・信頼の原則:ジョエル・ピーターソン、デイビッド・A・カプラン(著)／ダイヤモンド社
- ・流れとよどみ-哲学断章:大森荘蔵(著)／産業図書